

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: osk_CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	きたしん豊中ビル新築工事	階数	地上6F
建設地	大阪府豊中市岡町	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	488 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2018年9月5日
敷地面積	1,164 m ²	作成者	近藤良彦
建築面積	601 m ²	確認日	
延床面積	3,510 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 93%
③上記+②以外の 93%
④上記+ 93%

(kg-CO₂/年・m²)

0 46 92 138

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	災害時への事業継続や熱不可抑制に配慮	その他 特になし
Q1 室内環境	開口部へのブラインド設置、全面的に☆☆☆☆の建材を利用	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
Q2 サービス性能	非常用発電機の設置、1.25倍の構造耐力の確保による災害時対策に配慮	
LR1 エネルギー	LOW-eガラス等を採用し、熱不可抑制に配慮。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を89%に削減
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない接着剤の使用	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0075

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	きたしん豊中ビル新築工事					
		建設地	豊中市岡町52番2、58番2、81番					
		用途/区分	事務所					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						3	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.2	3	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				2.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				2.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.5	3	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称	考慮事項					
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								